

大阪医科大学麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である大阪医科大学附属病院，専門研修連携施設である国立循環器病研究センター，兵庫県立こども病院，関西労災病院，大阪府三島救命救急センター，市立ひらかた病院，高槻赤十字病院，松下記念病院，康生会武田病院，城山病院，第一東和会病院，北摂総合病院，洛西シミズ病院，シミズ病院，岡波総合病院，天理よろづ相談所病院，十条武田リハビリテーション病院，啜生会脳神経外科病院，赤穂市民病院，心臓病センター榊原病院，三島南病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供する。麻酔，ペインクリニック，集中治療，救急医学，緩和医療を網羅したジェネラリストと，心臓血管麻酔，小児麻酔，産科麻酔などの専門分野を有するスペシャリストの両面を備えた麻酔科専門医を育成する。

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 4年間で手術室麻酔の各専門分野（心臓血管麻酔，小児麻酔，産科麻酔など）を網羅的に研修するだけでなく，麻酔科専門医に求められるペインクリニック，集中治療，救急医療，緩和医療に関しても一定期間研修する。
- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は，専門研修基幹施設の大阪医科大学附属病院で研修を行う。
- 専門研修基幹施設では手術麻酔だけでなくペインクリニックや集中治療を調整の上，一定期間ローテーションする。
- 希望により国立循環器病研究センター，兵庫県立こども病院のいずれかで1年間の研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する。

最低経験症例を満たしながらも，各自の希望を相談しサブスペシャリティーの構築を目指す柔軟なプログラムとする。

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児または心臓）	C（ペインまたは集中治療）	D（社会人大学院）
初年度前期	本院	本院	本院	本院
初年度後期	本院	本院	本院	本院
2年度前期	本院（ペイン）	専門研修連携施設	本院（ペインまたは集中治療）	本院
2年度後期	本院（集中治療）	専門研修連携施設	本院（ペインまたは集中治療）	本院
3年度前期	専門研修連携施設1	本院	専門研修連携施設1	専門研修連携施設
3年度後期	専門研修連携施設1	本院	専門研修連携施設1	専門研修連携施設
4年度前期	専門研修連携施設2	兵庫県立こども病院または国立循環器病研究センター	専門研修連携施設2	本院

4年度 後期	専門研修連携 施設2	兵庫県立こども病 院または国立循環 器病研究センター	専門研修連携施設 2	本院
-----------	---------------	----------------------------------	---------------	----

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	ミニレク チャー(隔週)	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

3. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数： 22,502 症例

本研修プログラム全体における総指導医数：36 人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	535 症例
帝王切開術の麻酔	275 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	995 症例
胸部外科手術の麻酔	1033 症例
脳神経外科手術の麻酔	928 症例

① 専門研修基幹施設

大阪医科大学医学部附属病院（以下、大阪医大病院）

研修プログラム統括責任者：南 敏明

専門研修指導医：南 敏明（麻酔、ペインクリニック）

梅垣 修（集中治療）

澤井俊幸（心臓血管麻酔）

辰巳真一（気道管理、安全管理）

宮崎信一郎（心臓血管麻酔、ペインクリニック）

日下裕介（心臓血管麻酔、集中治療）

門野紀子（集中治療）

中平淳子（心臓血管麻酔）

間嶋 望（小児麻酔）

下山雄一郎（集中治療）
 駒澤伸泰（気道管理、緩和医療）
 専門医：三原良介（救急医学、集中治療）
 今川憲太郎（集中治療）
 尾本遥（産科麻酔、ペインクリニック）
 中野祥子（小児麻酔）
 藤原 淳（小児麻酔、心臓血管麻酔）
 中尾謙太（ペインクリニック）
 出口志保（集中治療）
 石尾純一（ペインクリニック）
 長峯達成（心臓血管麻酔）
 尾野直美（集中治療）
 佐野博昭（ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：19

特徴：2016年4月1日より、新中央手術棟（手術室20室、集中治療室16床）が新設され、麻酔科医局も1.5倍の広さになりました。種々のセミナー（麻酔科学関連だけではなく、学会発表のためのPower Pointの使い方、統計など）の開催、専門医試験対策、学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。

麻酔科管理症例数 7,001症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	349症例
帝王切開術の麻酔	168症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	415 症例
胸部外科手術の麻酔	776 症例
脳神経外科手術の麻酔	316症例

② 専門研修連携施設A

国立循環器病研究センター（以下、国立循環器）

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（心臓麻酔）

吉谷健司（心臓麻酔、脳外科麻酔）

金沢裕子（心臓麻酔）

加藤真也（心臓麻酔、脳外科麻酔）

南 公人 (集中治療)
 前田琢磨 (輸血管理)
 専門医：濱口英佑 (心臓麻酔)
 前川真基 (心臓麻酔)
 月永晶人 (心臓麻酔)
 下川 亮 (心臓麻酔)
 矢作武蔵 (心臓麻酔)

麻酔科認定病院番号：168

特徴：麻酔全般，特に心臓血管手術の麻酔

心臓大血管手術の症例数が多いこと．脳血管外科手術症例，産科症例が多くあること．
 成人心臓外科手術では弁手術，冠動脈バイパス術が多い．小切開手術，ロボット手術，
 TAVI，LVAD装着手術，心臓移植もある．

血管外科手術では胸腹部大動脈置換手術，弓部大動脈置換手術が多い．腹部大動脈手術，
 ステント手術，慢性肺塞栓除去術も多い．

小児心臓外科では新生児から世人先天性手術まで幅広く手術をおこなっている．新生児
 姑息術も多い．

脳外科手術ではバイパス手術，カテーテルインターベンションが多くある．内頸動脈内
 膜剥離術やクリッピングも多い．

帝王切開手術では，先天性心疾患や肺高血圧などを合併した妊婦の管理がある．

麻酔科管理症例数 2,376症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	5症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	75 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	20症例

③ 専門研修連携施設B

兵庫県立こども病院（以下，こども病院）

研修実施責任者：香川 哲郎

専門研修指導医：香川哲郎（小児麻酔）

高辻小枝子（小児麻酔）

大西泰広（小児麻酔）

鹿原史寿子（小児麻酔）

池島典之（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。

小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

週間スケジュール

月曜日から金曜日（毎朝8時30分から8時45分まで）：術前症例検討会

月曜日から金曜日（毎朝7時50分から8時00分まで）：心臓外科術前症例検討会

水曜日（8時00分から8時30分まで）：抄読会

月曜日から金曜日（9時から）：手術室での麻酔及び術前診察・術後回診等

金曜日（16時30分から17時30分）：重症症例検討会

麻酔科管理症例数 4664 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	100症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

④ 専門研修連携施設B

関西労災病院（以下、関西労災病院）

研修実施責任者：上山博史

専門研修指導医：上山博史（麻酔）

専門医 清中さわみ（麻酔）

岡田夏枝（麻酔）

阪下直美（麻酔）

福原 彩（集中治療）

阪下直美（麻酔）

中野一菜（麻酔）

麻酔科認定病院番号：327

特徴：県内で中心的な役割を果たす手術施設
集中治療の研修も可能

麻酔科管理症例数 5,194 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	30 症例

⑤ 専門研修連携施設A

市立ひらかた病院（以下、ひらかた病院）

研修実施責任者：赤塚 正文

専門研修指導医：赤塚 正文（麻酔）

三根 大乘（麻酔）

吉本 嘉世（麻酔）

麻酔科認定病院番号：956

特徴：基幹型臨床研修病院、緩和ケア病棟あり

麻酔科管理症例数 1,685症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	27症例
帝王切開術の麻酔	49症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	6症例

⑥ 専門研修連携施設B

高槻赤十字病院（以下、高槻日赤）

研修実施責任者：辻井英治

専門研修指導医：辻井英治（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1703

特徴：周手術期における基本的知識・技術の習得ができる。

麻酔科管理症例数 1,133症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	6症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	109 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

⑦ 専門研修連携施設A

康生会 武田病院（以下、武田病院）

研修実施責任者：原直樹

専門研修指導医：伊藤雅之（麻酔）

原直樹（麻酔）

臨床研修病院指定年月日：平成15年4月1日（麻酔科認定病院番号：1001）

特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 1196症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	112症例
胸部外科手術の麻酔	52症例
脳神経外科手術の麻酔	82症例

⑧ 専門研修連携施設A

第一東和会病院（以下、東和会）

研修実施責任者：田中源重

専門研修指導医：森本賢治（麻酔一般、ペインクリニック）

高橋陵太（麻酔一般、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：1374

特徴：腹部の内視鏡手術が多い

麻酔科管理症例数 2661症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	9 症例
脳神経外科手術の麻酔	18症例

⑨ 専門研修連携施設A

清仁会 洛西シミズ病院（以下、洛西シミズ）

研修実施責任者：村谷 忠利

専門研修指導医：村谷 忠利（麻酔、ペインクリニック）

2013 年 研修委員会認定病院取得（麻酔科認定病院番号 1355 ）

特徴：整形外科中心の麻酔であるため、多発外傷の麻酔が多いことが特徴。

また、研修中にペインクリニックの研修も可能である。

麻酔科管理症例数 602症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	1症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	3症例

⑩ 専門研修連携施設A

赤穂市民病院（以下、赤穂市民病院）

研修実施責任者：横山弥栄

専門研修指導医：横山弥栄（麻酔、ペインクリニック）

長尾靖之（麻酔）

麻酔科認定病院番号：559

特徴：兵庫県西播磨地方の中核病院です。地域医療支援病院、へき地医療支援病院、がん診療連携拠点病院の指定も受けています。396床の中小病院ですが各科の垣根が低く、周術期にも連携してチーム医療ができています。移植と呼吸器外科を除くほぼすべての科があり、中核病院の性質上緊急手術も多いです。専門研修指導医2名と専門医1名が指導し、麻酔手技を数多く経験していただけます。またペインクリニック認定病院なので、希望があればペインクリニックの研修も可能です。

麻酔科管理症例数 1,130症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

⑪ 専門研修連携施設B

大阪府三島救命救急センター（以下、救命センター）

研修実施責任者：川上真樹子

専門研修指導医：川上真樹子（麻酔・救急）

麻酔科認定病院番号：566

特徴：地域における救急医療の中心施設

救急外来における初療対応

緊急症例に対する麻酔

集中治療室における管理など

麻酔科管理症例数267症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

⑫ 専門研修連携施設A

パナソニック健康保険組合松下記念病院

研修実施責任者：山根哲郎

専門研修指導医：趙崇至（麻酔・緩和）

楠大弘（麻酔・集中治療）

専門医：塩見真由美（麻酔）

麻酔科認定病院番号：139

特徴：地域医療支援病院であり、大阪府のがん診療拠点病院である。希望者は緩和ケアチームに参加可能。

麻酔科管理症例数 1,552症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	13 症例
帝王切開術の麻酔	53 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	11 症例
胸部外科手術の麻酔	40 症例
脳神経外科手術の麻酔	1 症例

⑬ 専門研修連携施設A

春秋会城山病院（以下、城山病院）

研修実施責任者：大中仁彦

専門研修指導医：大中仁彦（麻酔）

高山隆吉（麻酔）

麻酔科認定病院番号：922

特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 1,365症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	37 症例

胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	105症例

⑭ 専門研修連携施設B

北摂総合病院（以下，北摂総合）

研修実施責任者：西原 功

専門研修指導医：西原 功（麻酔）

藤原俊介（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：997

特徴：地域医療支援病院。循環器診療に注力しているため、循環器合併症を持つ患者が多い。

麻酔科管理症例数 1,548症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	8症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	20 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

⑮ 専門研修連携施設B

シミズ病院（以下，シミズ病院）

研修実施責任者：奥野隆司

専門研修指導医：奥野隆司（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：1445

特徴：脳外科を主体とした急性期医療

麻酔科管理症例数 248症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例

胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	102症例

⑩ 専門研修連携施設A

岡波総合病院（以下，岡波総合）

研修実施責任者：西澤 伸康（麻酔）

専門研修指導医：西澤 伸康（麻酔）

高井 規子（麻酔）

中川 洵（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1233

特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 908症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20症例
胸部外科手術の麻酔	2 症例
脳神経外科手術の麻酔	20症例

⑪ 専門研修連携施設B

天理よろづ相談所病院（以下，天理よろづ）

研修実施責任者：石井久成

専門研修指導医：石井久成（心臓麻酔）

石村直子（麻酔）

若松拓彦（麻酔）

麻酔科認定病院番号：83

特徴：当院では、ほぼ全科に及ぶ多種多様な手術の麻酔を行います。年間麻酔科管理手術数が約3500例です。なかでも心臓血管外科手術は300例を越える心臓血管麻酔専門医認定施設です。特に緊急の大動脈解離・破裂、CABGのような、麻酔科医のスピードと度胸と判断力がためされるような症例が多くやってきます。小児心臓麻酔も、ASD/VSDからJateneやFontan手術にいたるまで経験することができます。TAVIはTF/TAあわせて

20例を越えました。循環器科医、心臓血管外科医との良好な意思疎通のもとで、ハートチームの一員として麻酔を含めた周術期管理を担当します。

麻酔科管理症例数 3,357症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25 症例
胸部外科手術の麻酔	25 症例
脳神経外科手術の麻酔	20症例

⑱ 専門研修連携施設B

十条武田リハビリテーション病院（以下、十条病院）

研修実施責任者：大塚 みき子

専門研修指導医：大塚 みき子（麻酔）

茂山 泰樹（麻酔・ペイン）

2014年 研修委員会認定病院取得（麻酔科認定病院番号：1701）

特徴：地域医療支援施設

高齢者麻酔、区域麻酔を利用した麻酔

麻酔科管理症例数 348症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2 症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

⑲ 専門研修連携施設B

社会医療法人信愛会 啜生会脳神経外科病院（以下、啜生会病院）

研修実施責任者：山名 健

専門研修指導医：山名 健（麻酔，手術室）

麻酔科認定病院番号：1368

特徴：集中治療のローテーション可能

麻酔科管理症例数 1,137症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	3 症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	170 症例

㊦ 専門研修連携施設A

心臓病センター榊原病院

研修実施責任者：石井智子

専門研修指導医：石井智子（心臓麻酔）

岡田 修（心臓麻酔）

三浦由紀子（心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号：1142

特徴：心臓外科領域の麻酔が主である。TAVI、MICSも症例数が多い。

麻酔科管理症例数 1,091症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	300 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

㊦ 専門研修連携施設B

三島南病院

研修実施責任者：中野弘行

専門研修指導医：中野弘行

専門医：中野弘行

麻酔科認定病院番号：

特徴：当院は、大阪医科大学附属病院や地域医療機関と連携して、救急・急性期医療から回復期・療養医療まで幅広い医療を提供するとともに、血液浄化センター、デイケアセンター、訪問看護ステーション、更には三島地区唯一の「サイバーナイフⅡ（放射線治療機器）」を整備しているケアミックス型病院です。

麻酔科管理症例数 203症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

5. 募集定員

12名

（*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2018年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、大阪医科大学附属病院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

大阪医科大学麻酔科学教室 教授秘書 谷村

大阪府高槻市大学町2番7号

TEL 072-683-1221 内線2368

E-mail ane000@osaka-med.ac.jp

Website <http://www.osaka-med.ac.jp/deps/ane/Ane-index-J.html>

4. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

5. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

6. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

7. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 多職種による専攻医評価

年度ごとに多職種（当院では現在のところ、看護副部長兼中央手術室看護師長、集中

治療部看護師長、臨床工学技師長補佐、中央手術室担当薬剤師)による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする。

③ 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

8. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

9. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

10. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課

せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

11. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての天理よろづ相談所病院、岡波総合病院、赤穂市民病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。